

## 平成29年度 第4回枚方市都市計画公聴会 記録

### (1) 公聴会の日時及び場所

開催日時： 平成30年3月17日（土） 午前10時から午前11時30分まで

開催場所： 京都府京田辺市田辺丸山214

京田辺市立中央公民館 1階 第1研修室

### (2) 都市計画案の概要

東部大阪都市計画ごみ焼却場の変更

名称		位置	面積
番号	ごみ焼却場名		
210-3	枚方京田辺環境施設組合 可燃ごみ広域処理施設	京都府京田辺市 田辺ボケ谷、甘南備台二丁目地内	約 35,600 m <sup>2</sup>

### (3) 公述人

2名

## 【公述人 A】

一番気になっているのは、京田辺市でごみ減量化推進委員というのがあって、ごみを減量するそういう委員会なのかなという思いを持っておりました。真剣に京田辺市は、できるだけごみを減らすためにプラスチックを分けるとか、色んなことをするのが大事なことのだなとって皆で色々していました。段々、ごみが少なくなって年齢がいけばいくほど、食料の物の食べ方も変わる部分が一番、栄養があるのだというようなことで、段々少なくなっていって、お年寄りの方はごみ袋が段々小さくなって、「あ、忘れてしまった。」といっても「まあ、これぐらいだからいいわ。」というくらいにごみ減量に真面目だなと思っていたら、ごみ減量化推進委員の中でそういうことが決められていた、そういう話が進んでいたということは、京田辺市のごみ減量化推進委員が何年にこういうようにしようとしたのか、その年代が「あれ？」と思うことが多いので、京田辺市の皆様は何を考えておられるのかなあということが疑問です。

さっきの自治会の何とかとおっしゃられたような、どこのどういう人がごみ減量化推進委員になって、枚方市と一緒にするということを決めておられるのか、そういう組織であるというのはただの市民はわかりません。でも、今は情報公開制度がちゃんとあるので、どういう人が決めていたのかを見たらわかるのですが、大阪との境に「なんで。」というようなところで決めておられる。そういう人としての疑問がごみ減量化推進委員で、大阪の事業と京田辺と一緒にするということ悲しさを感じました。

やっぱり、できれば大阪の方に申し上げたいのは、自分たちのごみは自分たちで考えてもらったらどうかと、大阪府と京都府は全然、組織や考え方が違うし、温暖化の場合も京都府で温暖化の計画を出さなければならぬ、そして大阪は大阪で出しておられる。そんなごみを全部、京田辺市のこんないいところで燃やして、大阪は減るでしょう当然ね。今、大阪がどんな立場にあるのかということは知っていますので、夢洲や舞洲にいくらでも埋立地をつくってすれば良いので、京田辺市も燃やしたあと埋め立てるところがないので、正直、心配になったこともあります。だけど、今、大阪はどんどん持ってきてもいいよと言って下さっているそうで、それは心配ないのだなというようなことを思い、京都府民は、京田辺市民は皆で環境を守るために京都府の環境を守ったらどうかと、思うわけで、京都府でごみを広域化しているところは、大きな炉をつくっているところは情報公開をしてもらいましたが無いです。京都市内では1箇所ありますが、京都府内には無いと思います。

そんな大きな炉を京田辺市に持ってきて燃やすという、枚方市の大阪府は大阪府としてしなければならないこともあるし、京都府は京都府としてしなければならないこともあるので、こんなごみの焼却をここに持ってきてというのは、やめてほしいと思います。私は、負のマイナスの遺産というのがどうしてもできるというのは分かりますが、こういうやり方で持ってくるのはちょっとおかしいなと思います。

ここに新設の適地と書いてあって、「既存の都市計画の面積に不足は無く、その用地に著しい不都合が生じていないので、枚方市内で新たな用地を求める必要は認められない、したがってここではごみ焼却場として枚方市都市計画に指定された用地及び京田辺市内で最適地としている甘南備園を候補地として検討している。」と、そういう文章も出ているのですが、このところに大阪府が言っているのは、ごみの搬入及び焼却炉の残渣の処理に便利な場所を選ぶこと、後方方向に対して市街化の風上を避けること、人の近接しない場所を選ぶこと、搬出入経路は繁華街や住宅街を通らないこと、市街地の予想される区域から500m以上はなれた場所を選ぶこと、300m以内に学校・病院施設または公園がないこと、こういうふうに書いてあって○や×がつけられています、こういうことを枚方市はやっておられながら、京田辺市であれば良いのかということですよ。なぜ、風上がだめと自分たちは知っていながら、京田辺市の風上、京田辺市に全部影響を及ぼすところにつくるという、これは人として私は納得できないなと思います。

この間、東部清掃工場へ行ったときに「持って帰っていいですよ。」と言われて、持って帰りました。すると、ごみの分別があります。その中で、意外にごみ量の数は同じと言いながら、全然違うのですね。プラスチックや、何やらと燃やしてもよい、だから枚方市の人に聞いたら、「京田辺市で燃やしてもらったら、私たちは分別が楽になって良い。」と、そういったことが書いてある文書を私たちはもらいました。そういうふうな考え方で、小さい京田辺市をいじめないでほしいと思います。ここができた時から私は知っています。10年、11年になるかと思いますが、一番、最初に稼働したときに何か爆発が起こったとか、そういうことを市民は知っているわけで、自分たちのこのまわりだけ環境影響か何かを調べて、ここの花が枯れたらこうしたら良いと、全然4kmの範囲でやると言いながら京都府の環境課にはその資料しか示していない、これだけ4kmの範囲内に暮らしをと言いつつ本をつくりながら、東部清掃工場の方はここから100m程のところ、新しい図も見ましたが何も無いではないですか。距離の無いところを測って、自分たちさえ良かったらいいというような、そういうことが情報公開してもらったら分かるじゃないですか。そんなことが許される時代じゃないと私は思っています。

私は甘南備山が大好きです。お正月に皆さんと一緒に登りました。甘南備山から見て京都をはかったこの地点だと思って、大変素敵な景色を楽しみに登るときに、煙突がこの角度なら見えないように画像修正しないとイケないとか、そこまでして。私は好きだから甘南備山に登って、ここに生活保全林があって、色んなきれいな植物があって、そして池があって、そして配水池があって、展望台からの京都の一望、そして滝とかこういうものを見るのが好きでした。甘南備山のところには、ぎりぎりかかっていないとは言いますが、どれだけの色んな植物が何十年の間に枯れていくのか、それでは甘南備山を守っている人たちはどう思っているのかなと、怖いから口にチャックとおっしゃった。私は何回も言いますが京都府京都市内から移って京田辺市が大好きになりました。それはやっぱり、こういう景色を見たりするから好きになったわけで、そういう画像修正をしたりしながらでは住民には伝わりません。だけど、京田辺の市民となってからは京都府民ですので、いろんなことを見て高校で仕事をして知っているのも、京都府の良さっていうのはかけがえのないものであると、どこへ行っても言いたいなと思っています。

京都府の絶滅危惧種というのがありますが、絶滅の野生生物の環境保全、京都府も大きいですから、なかなか端から端まで見てもらえないし、私が子どもの時にいつも遊びに行っていた山なんかは、京都府として守っていききたいということはよくわかりますが、京田辺市まで段々と地方政治が変わってきて、京都府は京都府のこと、京田辺市は京田辺市のことというように政治のやり方が変わってきたけど、私は京都府民であり京田辺市民ですので、この美しい環境をあまり雑に大阪の人がしないしてほしいと思います。京都府の環境アセスメントというのがあります、京都府は独自に環境アセスメントをして、大阪府は大阪府のアセスメントがあって、その中で書いてあることがちょっと違うなと思って、これはまた別のところで話します。

自分は花を写生して、こんな本を出して自然観察をしているので、そういう変化というものをよくわかっております。今はただの絵描きです。ここに京田辺市のごみ減量化推進審議会名簿というのがあるので、どういう方が審議会にいるのか、26年5月、4年前にも経済環境部の方が基本的には都市計画をする必要があると既に書いてある。26年、私たちはごみ減量化推進審議会のことは知りません。そのとき、私たちは一生懸命ごみを減らすことをしなければならぬと思っていました。ごみ分別のときも説明会があったので行ったら、「お前の行くところじゃないだろう。」と怒られたのですが、そういう組織を作り上げることに對して市民に丁寧な言ってもらったらよい。情報公開した内容を見ていると、26年に都市計画をたてるということが、ここからこういう人たちの流れでいったのかなと、情報公開制度をやっているのだからこうしてほしいなと思います。

これは、京都府が広域化していないということで小さな炉しか、そんな大きな炉は亀岡や乙訓はどうとか色々もらいましたが、大阪と一緒にいるところはどこもありません。大阪の言い分ばかりを受け入れたら、京田辺市がどうなるのかなと、確かに嘘はついておりません。これは「可燃ごみ広域処理に関する主な経過」というので、これも情報公開してもらいましたが、このところに21年から一般廃棄物処理・ごみ処理に関する相互支援協定ということで、色々としてくださっているのはわかるのですが、何か市民そっちのけでされているという悲しさがあります。

これが東部清掃工場をつくるときの記録ですが、ここに枚方第二清掃工場とその周辺を考える現状報告というのが、平成15年に出ています。この時に、どういう貴重な動植物がいるか、全部このように出ています。その事業計画がここに出ている、京田辺市の動植物がどうなったのか、その事業計画がどうなったのかという報告は、さっきも言いました自分たちの地域の東部清掃工場の周りの200m、それしかしていない。そして、京都府にはそれしか出していない。京都府の環境課には、膨大な資料を出している自分たちの周りだけ。一番原点は平成15年に会議をしている、市民が大体60名出席していて、第2工場の周辺を考える報告書というので全部出しています。それなのに実際にはしていない。大阪はそこらをきっちり、市民に見せなければならぬと思います。

ここにも載っていますが、宇治田原での取り組みは目に見える形になって、そういうふうにして下さった人も、役職が上がってくると別の課にいらっしゃって自然のことなんか考えてくれませんが、そのときは逆転層についてもきっちり話してあるし、煙突を50mから100mにしたら逆転層ができて、全部、京田辺市のほうへ行くとかね。そういうことをなぜきっちりと、京田辺市は考えてくださらないのか。その時の市長は今の方とは別ですが、それは市民に言って、京田辺市は京田辺市の環境の良さを、そして皆が努力してやらなければいけないと思います。

水路についても、水をどこから買っているか。京田辺市は、私が来たときは全て地下水で賄っているとおっしゃっておられました。3、4年前からすごく予算を出して府営水を買っていますが、それは仕方の無いことかも知れませんが、京田辺市はその時は地下水だけで賄っており、松井ヶ丘は地下水だけだとおっしゃってくださいました。私はやっぱり環境のことは本当に大事なことで、守っていかなければならない、唯一、京田辺市が自然環境を守っているところと思っています。

ここにあるのは大阪の断層、地震がどう動いたのかというところの、京都及び大阪の活断層の動き方というところで、これは図書館に行って自分なりに色々勉強しましたが、どの活断層がいつどのくらい動くかというところで、枚方もちゃんと載っています。そういうことを枚方の人は、ちゃんと勉強して京田辺市に押し付けようとしているのですか、という思いがあります。枚方市には70年の歴史があるが、私は「あれ？」と疑問に思ったことは調べました。どのように活断層があって、大阪の地層、京田辺の地層がどうなっているのか、ここにちゃんと書いてある。それを納得して枚方市は、全部京田辺市に持って来ようとしているのかと思うと、大国が小国をするみたいな形でされるのは納得がいかない。こういうことを皆が知って、大阪の地層、地すべり地であるということは載っていて、今まで30年以内と言っていたのが20年以内に災害が来るということがわかりきっているのに、枚方市から京田辺市へ持ってこようとするのは適わないと思っています。

ここに尊延寺と書いてありますが、私に持ってこられた「組合だより」を枚方市はしっかり出されていますが、こういったものを私は知りませんでした。こういったものを私は知らないという、新聞にお正月号に載っているとの事でした。住民には2017年7月22日とのことで、家へ持ってきて色々と言われましたが、友達を誘ってきてくださいと言われましたが、私は免許証を返上して車もないしどこへも行けませんので、ただどうして枚方の方が家まで持ってきてくださって、「いい加減にしろ。」と言うのは、私も口にチャックするのがいけないかも知れませんが、枚方は20年燃やしたら今後は燃やしてあげるとか、そのような約束は枚方にないでしょう、してくれるのですか。20

年間、誰が京田辺市で燃やしていいと言っているのですか。それが聞きたいです。

これは平成26年に枚方市が出したごみ基本構想ですが、「ごみ処理の位置の決定については市民に十分な説明が必要である。」と書いています。尊延寺の方が、「市民に説明している。」として持ってこられましたけど、私たち京田辺市民は何ら知らされていない。そういうことは、誰に責任があるのか知りませんが、「災害の発生する恐れの高い区域に設定することは望ましくない。」とあります。自分たちが書いておいて、京田辺市の災害の危険性のある区域につくっておけ、ということですか。「ごみ処理施設の位置については市民に十分な説明が必要である。」と書いておきながら、「ここは望ましくない。」と書いておきながら、京田辺市の危険地域に持ってきて良いというのは、枚方市の勝手というのか傲慢です。あそこに旗を立てて反対している人はいないと書いていますが、旗を立てて反対するほどの勇気は私にはありませんし、旗を立てたらすぐに警察が来ますしね。そのようなことをしませんが、それでも納得ができない。

国の基本計画では「市町村の役割として、分別収集区分や処理方法、廃棄物システムはその必要性や環境負荷や経済面に係る利点を住民や事業者に対して明確に説明するように。」と書いてありますが、これはごみ処理基本計画で、国が平成26年11月に京田辺市にちゃんと言っているのに、住民に説明してくれていない。私は京田辺市の人に言いたいです「これを説明してからじゃないですか。」と。これに計画目標とか書いてあるけど、煤塵が0.04以下、計画目標が0.01以下とかちゃんと書いてあるけれども、これらを全然しないでこの地域だけやりますと言って出しても困るじゃないですか。私は市民として困ります。これは都市計画法ですか、調べるところはこんなところだけですか。「安まちが必要ですか。」と私が聞きましたら、「安まちに関連するだろう。」と言われましたが、なぜここが安まちに関連するのかと思ったら、昨日の晩にヘリコプターが停まる場所と言われた。なぜヘリコプターや乗用車が停まる場所がこんなところかと思ったら、売却されたと聞いて驚いています。ボケ谷や甘南備二丁目と書かれていますけれども、情報ではボケ谷としか書いていません。

※ 時間切れ

## 【公述人 B】

〇〇です。よろしくお願い致します。

東部大阪都市計画ごみ焼却場の決定案に対する意見を述べたいと思います。先ほどの綴喜都市計画ごみ焼却場の決定案に対する内容と重複する点が多々あるかと思いますが、よろしくご理解の程お願い致します。

枚方市に要望したいこと、申し上げたいことが多々ありますが、京田辺市と枚方市の境に東部清掃工場と京田辺市の甘南備園のある地域のところの環境が非常に悪化していることを十分ご認識いただきたい。かつて枚方市が埋めた汚泥の覆土に有害物質が含まれたため、大きな影響が出たことは認識いただいていると思います。その汚泥の覆土の部分からは本来あるべきものではない有害物質が出ており、そのことに対しても市民が抗議をしないとなかなか動いていただけませんでした。実際に議会に申し上げたが、なかなかどうにもならなかった経過があります。その部分の環境の点から言っても、非常に私は解決に至っていないと思っています。実際に、そのところにさらに東部清掃工場をお建てになった点についても、当時の中司市長とはやりとりをさせていただきました。東部の事務所へも中司市長へ来ていただき、京田辺市民と何回も申し上げたいことを申し上げました。その時に中司さんは、この汚泥に関しては枚方市の負の遺産であるというふうに、京田辺市民に対し大変申し訳なかったということを、公式の場ではおっしゃらなかったものの、できる限りの対応をすることで動いていただいたという経過があります。

こういった流れの中で京田辺市民が枚方市に対してどのような感情を持っているかという、元々の汚泥に関しては埋め立てる量も広さも全てが申し合わせの何倍もされており、もちろん管理していない京田辺市、当時の田辺町も悪いですが、そういった犯罪的行為があったわけです。その結果、京田辺市もやっと動いたものの、市民感情としては非常に不信を持っていることをまず申し上げておきたいと思います。

今回の清掃工場、東部の件に関しても4kmというのは、枚方市が尊延寺の地域ならびに地元の方たちとの色々な話や交渉をされる中で、4km圏内でやってこられた経過があるのです。それは枚方市民の方がこれだけは最低検証する地域、検討する地域に入れるべきではないかということで、交渉や市民向けの住民説明会が度々開かれる中で定着している数字です。それが、今回はどうして京田辺市が2kmということについて承諾しているのか、さらに方法書では部分によっては1kmだとか200mといった数字も出ており、本当に馬鹿げた数字だと思うのです。その200m圏内、1km圏内だけで物がじっとしていますか。そんなことは絶対ないわけですね。だから、そういった生き物だとか自然を保全するということは、あらゆる角度からより良いように、これだけで最低限で良いということではなくて、より範囲を広げてより生息していく自然を残していくためには努力をすることが本来の調査をするあるべき姿だというふうに思いますけれども、今どういうわけか逆行しているなと思っています。

それから、今回の甘南備園の建替えに伴っての広域化ですけれども、これは本当に枚方市の穂谷の覚書からいうと、何とも奇跡が起こったようなことではないかというふうに思っているわけです。枚方市側にとってはですけども。当時、東部を建設されるときから穂谷のことは話題になっております。穂谷の覚書のことでも聞かせていただいています。もう穂谷には建てないということを経元の方と約束されている覚書があるということを見たわけではありませんが、そういったものがあるのだという事をお聞きしてしまし、「大変だなあ。」ということを担当の方がおっしゃっていたような記憶があります。それが今回、京田辺市側からどういった話があったのか、もちろん私にはわかりませんが、こちらでどうぞ建ててくださいと言ったのでしょうか、どうなのでしょう。それは枚方市としてはこんなことがあっていいのか、喜んでいただいても当たり前のことなのかなと思うのですね。

今日ここで開催すること自体、枚方市民から公述される市民がいないということですよ。そういったことが、京田辺市にとって非常に大きな問題だと思うのです。そういった点を一つ一つ見ても京田辺市の認識は本当にちょっと甘いのではないかなと恥じております。

それから先ほどの汚泥に関しても、まだまだ私は解決していないという上で、やっぱり枚方市の動きというのは非常に綿密に計画を立てておられるということを逆に感じております。やっぱり、私が知ってほしいのは、人口7万人程度のまちですけれども、もちろん言うまでもなく、そこには住人がいて生活があって、そして私たちがここの自然が好きだと、私も元々この人間ではありませんけれども実家が奈良と京都にありましたので、ちょうど間で煙突も少ないし、自然が多いと思ってこのまちを選んだのです。その中で、どんどんこういう問題が起こってきたら本当に悲しいなというふうに思っています。そういうふうに思っている市民が非常に多いということを、やっぱり理解していただきたい。

私たちは、言った、言わないという話になるかもわかりませんが、枚方の説明会に行かせていただいたときに、東部ができることですよ、枚方市役所の方が尊延寺や近辺の方に説明された言葉の中に、「皆さんご心配ないです。風も水も全部京田辺市側に行くのですから。枚方には特別大きな影響はないですから。」というようなことを、私たちがいるのも知らずに言われたのですよ。耳を疑いましたけれども、そういうふうにおっしゃいました。そのことが、私たちは枚方の本音だなあというふうに思っています。おっしゃるとおりですよ、東南東にほとんどの風が向いているのだから、次のところに建てたって枚方に風が向いていくということは、よっぽどのことがない限り無いわけです。同志社側も行くでしょうし、田辺側も行くでしょうし、それがほとんどですね。水も高いところから低いところへ流れるのは当たり前ですから、東部から京田辺側に流れてきているのも当たり前です。それらのことをおっしゃったのですけれども、表現がそういう表現だったのです。私たちはすごくショックを受けましたし、これはとてもじゃないことだというふうに思って、枚方の住民の方にいろいろと教えていただく、ということです。枚方が東部を建てられるときは、この間のような説明会じゃなかったですよ。夜の十二時を超えることなんて何回もありました。来ている住民も一生懸命やっておられましたけど、枚方側も後で一件、一件、家をまわって説明して、お願いしてというふうにやっておられましたよ。京田辺はその点は何と言うのか、言いようがありません。それぐらい重要なことだったのです。それぐらい大変なことなのです。今回はあれよ、あれよという間にこのようなことになってしまいましたけれども、やっぱり枚方のごみは、私は、くずはモールに行っても、このごみが京田辺に来るのだなと本当に情けなくなります。なんで、このようなことになってしまったのだろうと思います。

やっぱり枚方のごみは枚方で燃やしてもらいたい。30年後と聞かされていたのが、そんな数字は当然、30年後は枚方で燃やしますなんて一行も書いていませんし、炉が長持ちするようになっていきますから、そんな30年程度でね、普通の住宅でも最近30年で潰すような家はありませんよ。そんな話はありません話だと思って聞いています。そういうことで、馬鹿げた言葉をどんどん京田辺市は議会で言うような、情けないことになっているわけですが、本当にまず考えてもらいたいのは、枚方市がやろうとしてらっしゃることは、いずれやらなければいけないことと、渡りに船のような京田辺市の甘南備園の建替えがあったかも知れませんが、基本的なところは考え違いがあるのではないかと考えています。

自然破壊という点についても、東部清掃工場ができてからダイオキシンの影響も、今まで出なかったところに出ているのです。枚方からしたら、甘南備園ぼろぼろじゃないかと思われるかも知れません。そのとおりです。延命したって、昔の基準でやっていますから非常にダイオキシン数値も高いと思うのです。ただそれは、はっきりいって次元の違う話だと思います。そのために甘南備園を建替え

ようとしているのだから、それを今さら言われたところでどうにもできないですが、ただ今まで非常に数字が低かった北部の方に明らかに野外活動センターのところで0.092ピコだったものが2.1になっていますということを申し上げましたけれども、明らかに平成20年の東部清掃工場を超えてから数字がどんどん上がっていったのです。20年には数字が0.14になっているのですね。これは何らかの影響があったとしか思えないし、逆にそのことで下がっているところもあることはあるのですよ。それは悪いけど、東部の影響でも何でもないと思います。今一番、私が気になるのは煙突を高くすることによって、北部の方に数値が上がっていなかったのに上がっている、それから大住ヶ丘公園も平成18年に0.015だったものが平成23年には1.5となっていますね。これは今まで数字が上がらなかったところで上がってきているのは、煙突の高さが影響していると思っています。煙突の高さは枚方市が決められることではなくて、組合が決めることかも知れませんが、そういったことが影響しているのだということをご共有認識として持ってほしいと思っています。

それから広域とっていますが、今時、煙突を高くしてというのは、他で先生に聞いてみたら、「高くしたからといって、良いものではない。」というお話を聞きましたし、そこらのところは検討課題としてやっていくべき必要があると思っています。枚方市もごみ減量にどんどん取り組んでいかれると思います。実際に穂谷のピットを見せていただいたこともありますし、東部もを見せていただきましたけれども、正直、穂谷のごみ焼却の内容はこんな物まで燃やしていいのかというくらい、分別しておられないような傾向に当時はあったのではないかなというふうに思っています。これは、平成20年頃の話ですけれども、例えばお互いがごみ減量を進めていくと、それぞれにごみへの考え方なり方針というのは自然に変わっていくものだと思います。京田辺市の場合は農用地域も多いですし、色んな点ではもっと早くから生ごみのリサイクルが必要ではないかという声も出ていたのですが、なかなかそれに取り組んでいませんけど、そういった部分だとか紙の分別だとか、社会状況などで物の購入率、購買意欲が下がっていると思うのです。それと高齢化によってのごみの排出量は自然に下がっていきます。そういった部分から考えたらごみの減量の加速度は想像を超えていくだろうと考えています。うちの場合でも、ごみの炉は60t炉くらいの単独炉でちょうどいいのではないかなと私自身は思っています。そのほうが稼働率も良いし、これだけ不安定な社会になってくると職員採用ということも問題になってくると思っています。元々は50人程度、甘南備園にいましたが、段々、委託することによって変わってきました。今はどうか分かりませんが、一人がちゃんと安定した職業に就けば、3人から4人の人の生活が一定安定を覚えるというのが鉄則だと思うのです。そういった部分から考えても、家族構成も変わっているから一概には言えませんけれども、夫婦と子ども一人、二人の生活というのは、一人の安定生活が得られることによって得られるものということは、私は基本的には変わらないと思っています。

広域化にすると、今の枚方・京田辺の組合を見ても意見を碌々言わないし、正直、議員の様子を見ていると、日頃あれだけ元気な人たちが枚方の議員の前ではえらく小さくなっているなという印象を持っています。広域の議員数も枚方が7人と京田辺が5人というのは、そこで全てを決めていくのに、何も無いときはいいですよ、お互いが仲良くやっていけば、でもぎりぎりのところになったら人数が物を言うのに、よくこんな人数のことを受け入れたなというふうに思っています。枚方市もそういったことも十分お考えになって7人ということになさっていると思いますが、やっぱり京田辺市をもっと大事に、本当に友好関係を結んでこうしてうっていくということがあるのなら、大事に考えてほしいというふうに思っています。これだけじゃないですよ。色んな点で一緒にやっていく部分があるかと思いますが、そういった友好的なところもある反面、そういった点では利用しすぎではないかと思っています。

高槻ともいろいろごみの事でおやりになったということも新聞で、ごみ処理じゃないですけども



新聞で拝見して、高槻の方には結構強くものをおっしゃるのだなどの印象もありましたし、基本的に私は自分たちが出したものは自分たちで処理をするというのが本当だと思いますから、府を超えてまで来ていただかなくていいと思っています。

枚方市は北河内の中で京田辺だけではなく、色々なところで組合形式にしているのかは知りませんが、共有で広域化しているところがあると思いますが、京田辺の場合は綴喜圏内でやるのが今まで多かったです。だから、綴喜圏内でやるのが基本となっているので消防でもそうですが、こういった形で今までと違う大阪府・京都府の中でやっていくことに対してなかなか理解ができないところもありますし、基本的なシステムが違うのではないかと思います。そういったところで、できるだけ丁寧なやり方をさせていただきたい。

京田辺のあまり賛成ではないですけれども、封筒にも書いています「便利でええやん 京田辺」、私は枚方市にとって「便利でええやん 京田辺」になっているのではないかと思います。そういうふうに思わせないでほしい。これは、市民にとって便利なまちにしていこうということなので、その点は是非、京田辺市に対してそこに市民が生活しているのだということをお忘れいただかないようお願いしたいと思います。

最後に申し上げておきますけれども、枚方市からも広域の組合に職員を出されていますけれども、東部清掃工場に関しては、後々事件が起こったと思います。不正や中司さんも逮捕されて色々なことが起こったと思いますが、これは公然の事実なのではっきり言わせていただきますけれども、どこでどういうふうになったのかよくわかりませんが、そういった部分、そういった体質が何かあったのであれば十分検証されたことと思いますけれども、うちの職員に一切そういった何かが起こらないように十分にそちらのほうでも管理をしていただくということをお願いしておきたいと思います。京田辺市の方は色々事件を起こす職員もありましたけれども、そんな大きなトップが何かをするということは、なかなか歴史的にもありませんので、そういうことが起こっていただいては困りますし、職員も巻き込まないようにしていただきたい。

最後に申し上げますけど、是非、枚方市も一度、甘南備山に上がっていただいて、また京田辺市の自然を見ていただいて、枚方市から引き返された方も沢山おられますので、何を求めてここで住んで、みんなが暮らしているのかということを考えてもらいたいと思います。うちはだいたい人口7万人から、どれだけ伸びても10万人まではなかなかいきません。そのような小さなまちですけれども、みんな一生懸命、分別にも取り組みますし、このまちが大好きだから一生懸命、市に言われたことは涙ぐましい努力をやっています。そういうふうにして一つ一つ大事にしていますし、この配慮書の中で含まれている保育所や幼稚園、大学まで全ての何千人、何万人という学生がいるのです、高齢者がいるのです。こういう暮らしがあるところに、大きなものを建てた影響というものをみていただきたいと思います。財政のことを言うなら、雲泥の差が枚方市とはあります。ですが、私たちは何も高望みをしたことは一度もないし、単独でいけるのなら単独で安くいきたいと思っていますので、歓迎はしておりません。以上です。